

トマト

3月の農作業

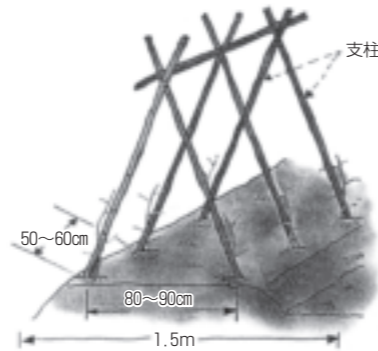
作型 連作障害が出やすいので、トマト、ナス、ピーマンの跡地には3～4年作らない。肥料は少しずつ、回数を多くする。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春 植 え			○	△		■	■	■	■	■	■	■	桃太郎、南光2号
	○：種まき △：植え付け ■：収穫												

畑の準備・定植

土づくり a当たり	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	15kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元 肥 a当たり	
油粕	30kg
畝立時施用	

- 2条植え：畝幅1.5m
- 株間50～60cm
- 条間80～90cm
- 第1花房の花が開いた苗を植える。
- 花房が通路側に向くように植える。



整枝・摘果

- わき芽は小さいうちにかきとり、主枝1本仕立てとする。
- 主枝の摘芯は支柱の高さで、最終果房の上に葉を2枚残して止める。
- 1つの花房にたくさん着果したときは、形の良いものを4～5果を残し、後は取り除く。



追肥・敷きわら

- 第1花房の実がピンポン玉程度になった頃から20日ごとに追肥する。(3回程くりかえす。)(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料3kg/a、または油粕8kg/a)
- 敷きわらは梅雨明け頃から厚く敷く。

防除

病虫害名	耕種防除	薬剤防除
疫病	雨よけ栽培をする。窒素の多施用を避ける。通風を良くする。	ダコニール1000(1,000倍) 前日まで4回以内 プロポーズ顆粒水和剤(1,000～1,500倍) 前日3回以内
葉かび病	通風を良くする。肥料切れにしない。	アミスター20フロアブル(2,000倍) 前日4回以内
ウイルス病	発病株は早めに除去する。	アブラムシ類の防除
アブラムシ類	光反射テープや光反射マルチを利用する。	モスピラン水溶剤(2,000倍) 前日3回以内

収穫 • すぐに食べる場合は真っ赤に完熟したものを収穫する。

裏面はなすを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.251 平成24年3月13日発行

なす

3月の農作業

作型 連作障害が発生しやすいので、ナス、トマト、ピーマン等ナス科植物の跡地には3～4年作付しない。接ぎ木苗が望ましい。(土壌伝染病の病気を回避できる。)更新暫定により10月下旬まで収穫できる。水ナス、米ナスは晩霜の恐れがなくなってから、植え付ける。普通ナスより多肥にする。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春 植 え			○	△		■	■	■	■	■	■	■	千両二号、黒陽、筑陽、兵庫長ナス
	○：種まき △：植え付け ■：収穫												

畑の準備・定植

土づくり a当たり	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	15kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元 肥 a当たり	
醗酵鶏糞	50kg
野菜専用肥料	10kg
畝立時施用	

- 1条植え：畝幅1.5m
- 株間50～60cm
- 本葉5～6枚の苗を植えた所がやや高めになるよう植え付ける。
- 深植えは禁物。



整枝・摘果

- 主枝と第1果房付近の側枝3本を伸ばし、4本仕立てとする。
- 側枝は第1果房の上に葉1枚残して、摘芯する。
- 収穫後は、切り戻し剪定をする。

■更新剪定 7月下旬に主枝と側枝の茎部から2～3芽残して切り取り、追肥を行う。(野菜専用肥料5～7kg) 収穫がとだえないように、半分ずつ切ると良い。約30日後、新枝から収穫できる。



追肥・敷きわら

- 収穫が始まった頃から20日ごとに追肥する。(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料5kg/a)
- 敷きわらは梅雨明け頃から厚く敷く。

防除

病虫害名	耕種防除	薬剤防除
疫病、褐紋病	連作を避ける。通風を良くする。窒素の多施用を避ける。	
褐色腐敗病	窒素の多施用を避ける。通風を良くする。マルチ栽培。	プロポーズ顆粒水和剤(1,000倍) 前日4回以内
うどんこ病	過湿を避け、換気を良くする。	アミスター20フロアブル(2,000倍) 前日4回以内
ハダニ病	周辺雑草を防除する。	ピラニカEW(2,000～3,000倍) 前日1回
アブラムシ類 アザミウマ類	光反射テープや光反射マルチを利用する。	オルトラン水和剤(1,000～2,000倍) 7日前3回以内

収穫 • 実が大きくなったものから順次収穫する。(若どりを行い草勢低下を防ぐと、収穫期間が長くなる。)

裏面はトマトを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.251 平成24年3月13日発行